

(様式1)

## 令和元年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)  
富山県有峰森林文化公園 森林政策課

2 施設所在地  
富山市有峰

3 施設設置年度  
平成14年度

4 設置目的  
豊かな森林を有する有峰において、森林と人との密接な関わりの中で作られた森林文化を継承するとともに新たな森林文化を創造すること。

5 施設概要  
敷地面積：97,828㎡  
主な施設  
・有峰ハウス（宿泊施設）：木造平屋一部二階 834㎡  
・ビジターセンター（展示室・事務室）：鉄筋コンクリート造平屋 196㎡  
・キャンプ場ロッジ（倉庫）：鉄筋コンクリート造平屋 164㎡

6 指定管理者  
公益社団法人富山県農林水産公社

7 指定期間  
5年  
平成30年4月1日 ~ 令和5年3月31日

### 8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

H27	H28	H29	H30	R1
1,663	1,656	1,909	1,489	1,607

※有峰ハウス、キャンプ場、テニスコート利用者数の合計

(2) 利用者数（人）

H27	H28	H29	H30	R1
21,955	15,271	11,025	12,179	16,027

※(1)を除く施設利用者数の合計

(3) 開催イベント参加者数（人）

H27	H28	H29	H30	R1
1,918	1,342	1,207	1,143	2,008

(4) 利用（使用）料金収入（千円）

H27	H28	H29	H30	R1
7,388	7,302	8,005	6,715	6,573

(5) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H27	H28	H29	H30	R1
6,365	6,365	6,365	7,097	7,122

## 9 評価項目

### (1) 利用者数・収入の増減に対する評価

H30年度と比較し利用者は増加したものの、利用料金収入は減少した。その要因については下記の通りである。  
利用者数の増については、①林道小見線二車線化の完成が近いことによる林道の利便性の向上、②イベント参加者が増加し有峰への認知が高くなったこと、の2点が理由と考える。  
一方で、料金収入が減となった理由は主に、①災害による岐阜県内林道の通行止めにより富山県一岐阜県間の往来が一年を通して不可であったため利用者が伸び悩んだこと、②利用料が安価なキャンプ場の利用者は増加したが有峰ハウスの利用者が減となったこと、の2点が挙げられる。

### (2) サービス向上に向けた取組み

・有峰ハウスのお風呂のお湯がぬるいとの意見が多かったため、R元年度に自動お湯張り機能を追加したところ、アンケートで湯加減に対する意見が減少した。  
・指導員が対応可能な範囲で、ビジターセンターに来訪する方に対して、積極的に声をかけをし、遊歩道の案内を行い、「森の案内人」として機能向上につとめた。

### (3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・有峰ハウスの料飲業務受託者の自主努力により、登山宿泊者の折立までの送迎を実施した。  
・林道が無料となる「有峰で遊ぼう」の行事について、H30年度までは案内チラシを一部地域の小学校のみの配布としていたが、R元年度は県内全ての小学校への配布を行い、有峰の認知度の向上を図った。

### (4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

#### ①アンケート結果

実施方法	有峰ハウスフロントにアンケート用紙を置いて宿泊者に記入してもらっている。（ハウス営業期間：6月～11月に実施）
回答者数	203名
結果	総合評価欄 「大変満足」 58.9% 「ほぼ満足」 38.0% 「普通」 2.6% 「やや不満」 0.0% 「不満」 0.5%
結果を踏まえた改善事項	・有峰ハウスのお風呂の自動お湯張り機能を追加した

#### ②その他利用者の声を反映させる取組み

・文化村行事ごとに、アンケートを記入してもらい、集計して、年度末の有峰森林文化村会議懇話会に報告し、次年度の計画立案に活かしている。

#### ③主な苦情と対応

・R元年度は、有峰地区で多数のクマが目撃された。このような中、バーベキュー広場を利用された方から、バーベキューの開始後にクマが付近を徘徊していたことから、中止せざるを得ず、あらかじめクマが出没することを教えて欲しかったとの苦情があった。このことからR元年度より、クマ注意の看板や、留意点を記したパンフレットを配布して訪れる方にあらかじめ周知するよう努めた。

(5) 個人情報保護の取組み

・有峰村民登録をされる方の個人情報の漏洩防止を厳重に行った。

(6) 関係団体との連携

・立山砂防カルデラ博物館や、立山博物館などの近隣施設と連携し、相互の施設のPRを行い、地区全体での利用者が増加するように努めた。

(7) 施設・設備の維持管理

遊歩道などの施設は、行事で使用する前及び2週間に1回程度、巡視点検を実施し、施設の安全利用に努め、適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

・クマの異常出没が見られたため、クマ対策に総合的に取り組んだ(①来訪者への普及活動(パンフ配布、注意看板設置、出没マップ掲載等)、②職員による巡回活動(キャンプ場利用者への個別普及活動、生ごみの回収)、③村内での自主活動(生ゴミ回収の徹底、侵入防止対策の実施、撃退対策の準備、適切な威嚇行為の実施)

10 所管課の管理運営確認状況

有/無 回数(有の場合)

①定期報告の受理	有	6
②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認	有	2
③個人情報に関するトラブルの有無	無	-
④危機管理・安全管理上のトラブルの有無	無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

無し

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

①行事参加者が高齢化しており、若者や女性、社会的弱者の方など、幅広い層の方が参加しやすい企画が必要。

②有峰の自然環境を活かした、「体験・学習型」の企画が必要。

③行事のPRが不十分である。このことから以下の対応が必要と考える

- ・年間の行事を年度当初にPRするリーフレット作成
- ・行事のPRパンフを個々に作成し、県有施設等にこまめに配布する必要がある。
- ・秘境黒部源流部が背後に控えており、登山基地として魅力が多いことをPRする。
- ・有峰はもはや「遙か遠い彼方」ではなく、「気軽に日帰り」できる箇所であることを積極的にPRする。